

2009/12/18 付 建設通信新聞

【JCCA 東北支部】支部長総括会見の記事が掲載されました



一緒に良いものつくる努力を

遠藤支部長が総括会見

建設コンサルタンツ協会東北支部と東北各県との2009年度意見交換会は、16日の宮城で全日程を終了した。同日に総括会見した遠藤支部長は「各県とも財政難に陥っており、元気がない印象を受け

た。特に来年度予算については『わからない』という回答が多かった。その中でも、さまざまな対策を立ててもらっている。低入対策もその一つだ。われわれが求める水準には達していないが、落札率は上がってきていると語った。技術力を重視したコンサルタント選定のひとつとして求めているプロポーザル方式の導

入・拡大が低調なことについては「大きなプロジェクトが少なくなってきたことも事実だが、技術提案書の評価が難しい」と答えが多い。県によってバラツキもあるが、今後は総合評価方式に移行するのではないかと認識を示した。各県の低入札対策については「もちろん、対策強化によ

る底上げも必要だが、技術力で勝負できるようにすれば、低入札はあまり関係がなくなる。もっと技術力の部分を評価するシステムが必要だ。ただ、受注できる企業が限定されるという懸念もあり、非常に悩ましい課題だ」とした。今後の意見交換会の継続に関しては「公共事業がないがしろにされている中で、主張

すべきことは主張していかなければならない。単に事業量を増やしてほしいということではなく、良いものをつくるための努力を一緒にしよう」という趣旨だ。入札契約の問題を始め、きちんとやらなければ優秀な企業が倒れてしまう。そういう事態は避けなければならない」と意欲を示した。